ISSN　1343－4837
土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書　第26集

楠　目　城　跡
（山田城跡）

山田氏関連遺跡確認調査報告書

2002．6

土佐山田町教育委員会

楠目城跡（山田城跡）

二〇〇二・六　高知県　土佐山田町教育委員会

楠　目　城　跡
（山田城跡）

山田氏関連遺跡確認調査報告書

2002．6

土佐山田町教育委員会

序　　文

楠目城跡は、土佐七守護と言われた一人で、香美郡中北部に勢力を誇った山田氏の居城として著名であり、高知県内の中世城跡の中でも有数の規模をもつ城跡の一つです。城跡からの眺望は高知平野を一望に収め、また、南は太平洋を遠望出来得る絶好の場所に立地しています。

山田氏も武者の栄枯盛衰に漏れず天文年間には長宗我部氏により滅亡させられます。滅亡後の楠目城跡は『長宗我部地検帳』から窺えますが城跡としての具体的な内容については不明な点が多く、その全容は多くの謎に包まれています。

平成9年度に確認調査を実施し、遺構の存在を確認することが出来ました。今回、調査結果をまとめた報告書を刊行することとなりました。本書が今後の中世城跡の研究に止まらず地方史研究にも役立ち、さらに楠目城跡の保存、保護を進める上での一助になれば誠に幸甚なことだと思います。

最後になりましたが、調査においてご指導、ご協力いただきました関係各位の皆様に心から深く感謝の意を表します。

平成14年6月

土佐山田町教育委員会

教育長　　原　　初　恵

目　　次

第Ⅰ章　遺跡の位置と地理的・歴史的環境 …… 4
1．地理的環境 …… 4
2．歴史的環境 …… 6
第Ⅱ章　調査に至る経過と調査方法 …… 9
1．調査に至る経過 …… 9
2．調査の方法 …… 9
第Ⅲ章　遺構と遺物 …… 11
第Ⅳ章　まとめ …… 17
附編　土佐山田町中世城館跡一覧表及び分布図 …… 18
遺物観察表 …… 16

挿図目次

図1　土佐山田町位置図 …… 5
図2　周辺の遺跡分布図・表 …… 8
図3　楠目城跡周辺地形図 …… 9
図4　楠目城跡現状図 …… 10
図5　試掘調査トレンチ位置図 …… 13
図6　トレンチ1～13平面図 …… 14
図7　トレンチ1～13セクション図 …… 15
図8　楠目城跡出土遺物 …… 16

写真図版

PL1　楠目城跡周辺航空写真
PL2　楠目城跡遠景、楠目城跡近景、楠目城下町跡近景、堀切、二ノ段虎口、二ノ段土塁
PL3　城内井戸、法林寺、(参考)山田氏の菩提寺〔旧予岳寺跡遠景〕、(参考)山田氏の菩提寺〔現予岳寺〕、(参考)山田氏累代の墓石、(参考)昭和20年頃の楠目城跡遠景、(参考)昭和40年頃の楠目城跡遠景
PL4　調査風景、TR-1遺構完掘状況、TR-2遺物出土状態、TR-3遺構完掘状況、TR-6遺構完掘状況、TR-8遺構完掘状況、TR-11遺構完掘状況、TR-13遺構完掘状況
PL5　包含層出土遺物(土師質土器、備前焼、染付)

例言

１．本書は、土佐山田町教育委員会が平成9年度に実施した山田氏関連遺跡確認調査報告書である。

２．楠目城跡は、高知県香美郡土佐山田町楠目字城山3548-3番地他に所在する。

３．当該地の試掘調査は、平成9年8月4日から平成10年1月30日、調査面積63.5㎡である。引き続き資料整理・報告書作成を平成14年度におこなった。

４．調査体制は以下の通である。

調査主体　土佐山田町教育委員会

調査事務　土佐山田町教育委員会

平成9年度

教　育　長　門脇　昭

社会教育課長　前田　智

調 査 事 務　中山泰弘

調 査 担 当　中山泰弘

平成14年度

教　育　長　原　初惠

社会教育課長　山崎泰広

調 査 事 務　小林麻由

調 査 担 当　中山泰弘（現　建設都計課主事）

５．発掘調査にあたっては、地元楠目地区の方々、土佐山田町文化財保護審議会、高知県教育委員会、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センターの協力を得た。また、現場発掘調査・遺物整理・図面作成作業にあたって、下記の方々の協力を得た。記して感謝の意を表したい。

現場作業員　伊藤　仁、佐々木龍男、竹崎芳子、小松一仁、池　宣弘、中沢英子、山岡正明（第一経済大学学生）

整理作業員　伊藤　仁、中村千代、岡林　光、竹崎寛将、井上博恵、高橋加奈、研川英征、宗石祥一、風間俊秀(高知工科大学学生)、山口　正(高知工科大学学生)

６．本書の執筆は、編集は中山が行なった。

７．楠目城跡の調査、整理作業では、森田直宏(高知県教育委員会文化財課埋蔵文化財班長)、松村博信(高知県埋蔵文化財センター)を始め数多くの方々から、助言、御教示をいただいた。併せて深く謝意を表したい。順不同、敬称略

８．出土遺物及び調査資料については、土佐山田町教育委員会が保管している。尚、遺物についての注記は、「97-1YK」を使用する。

９．遺構の名称については、SB(掘立柱建物)、ST(竪穴状遺構)、SK(土壙)、SD(溝状遺構)、SE(井戸)、SX(性格不明土壙)、P(柱穴又はピット)を使用する。

10．本報告書で使用した掲載図面の楠目城跡現状図は大原純一氏の作図を承諾により転用・転載させていただいた。記して感謝の意を表したい。

第Ⅰ章　遺跡の位置と地理的・歴史的環境

1．地理的環境

土佐山田町は、高知県の中央東寄りに位置し、県下第3位の川である物部川の中流域に位置する。物部川により形成された沖積平野に県下最大の穀倉地帯である高知平野の北端に位置し、物部川の洪積台地及び四国山地の一部を含む。

この物部川は、県北東部の香美郡物部村、剣山山系の白髪山(1,770m)の東斜面に源流を発し、高知平野東部の同郡吉川村で土佐湾に注ぐ。上・中流域は仏像構造線に沿って直線的に西南西流しており、流路に沿った上流へのルートは古来阿波国への最短距離として知られている。物部川に沿う山間部には発達した河岸段丘が発達し[1]、土佐山田町で流路を南に変え南流する。土佐山田町神母の木付近において平野部に流入し、肥沃な高知平野を縦断する。

高知平野東部を成す香長平野は不整形の扇状地で物部川両岸には鏡野[2]、山田野[3]と言われる古期扇状地の砂礫層から成る洪積台地を形成している。この台地は長岡台地と称される。長岡台地は、香長平野の北部を土佐山田町から南国市にまたがり、北東から南西に約5km連なる。洪積世中期以降に形成された比較的連続性に富んだ砂礫台地で隆起性扇状地である。標高は扇頂部に近い土佐山田町付近では約50mに達し南西に緩やかに傾斜し、扇端部の南国市後免町付近では15m～10mである。台地面の北西側は国分川流域に扇状地性低地、南東側は物部川下流域の扇状地性低地に対して段丘面を持って接している。台地は河床から5m内外の標高を持ち、台地の間に新期扇状地が広がり、北端部は国分川の浸食により断崖を形成する。洪積台地には旧石器時代の遺跡は発見されていないが物部川河岸段丘両岸の山麓部[4]、国分川水系である砥川の発生する山間部の山麓部[5]で確認されている。また縄文時代の遺跡も旧石器時代の遺跡ととほぼ同じ位置に所在する[6]。新期扇状地から沖積平野にかけての大地には県下最大の遺跡群、田村遺跡群(弥生時代～近世)[7]を始め大篠遺跡(弥生時代)[8]が分布する。また、条理制地割の遺構が広く認められるが、旧物部川は洪水氾濫をたびたび繰り返しており、条理制地割りの乱れた地域も多く、旧流路も数本認められる。

土佐山田町の市街地が乗っている扇頂部分付近は周囲に比べて高位な面となり、南部に一段低い下位面があり、二段の段丘面となっている。中央部から末端部は低地性氾濫原に向かって緩やかに台地斜面が傾斜し、特に南西端は扇状地性低地の粗粒性沖積層に埋没しており湧水地帯となって小河川が流出し湿地帯を形成している。土壌は多湿黒ボク土壌であり、層の厚さは20cm～50cm以上で下層は灰色か灰褐色の場合が多い。台地面は自然の河流が無く江戸時代以前は開発が遅れていたが、江戸時代初期、土佐藩奉行野中兼山が物部川に山田堰を築き、灌漑水路を設けたことによって台地面にも導水が行なわれた。開発には、郷士が登用され、台地上には旧郷士屋敷が散在し、散村的景観を呈している。また、後免・土佐山田・野市の在郷町もこの時期に形成されたものである。灌漑用水により、かつては米の二期作が盛んであり、現在も高知平野の水田地帯の一部であるが、乾田であるため、古来、葉タバコ・野菜の栽培も盛んである。近年はビニールハウスの施設園芸も増加してきている。町域面積の70%を森林地帯で占め、林業が盛んで良材を多く産出する。工業は、地場産業の打刃物などがある。扇頂部の土佐山田町は物部川上流部と香長平野の接点に立地した谷口集落でもある。台地面はかつて開発の主体となった郷士屋敷の点在する散村形態がみられ、現在もさの景観の名残がみられる。台地面の長軸(北東～南西方向)にほぼ沿う方向でJR土讃本線及び国道195号線が直線的に通過している。東にある三宝山の中腹には国指定史跡及び天然記念物である龍河洞があり、県下でも有数の観光地となっている。

註

(1)『南国市史』　上巻　南国市教育委員会　1979

(2)『野市町史』　上巻　野市町教育委員会　1992

(3)『土佐山田町史』土佐山田町教育委員会　1979

(4) 佐野楠目山からは石核、剥片などが表面採集されている。

(5) 新改西谷遺跡からはナイフ型石器が多量に出土している。

(6) 新改開キ丸遺跡、林田シタノジ遺跡、刈谷我野遺跡などがあげられる。

(7)『田村遺跡群　高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』第1分冊～第15分冊　1986　高知県教育委員会

(8) 註(1)に同じ

参考文献

『土佐山田町史』土佐山田町教育委員会　1979

『角川　日本地名大辞典　39高知県』　角川書店　1986

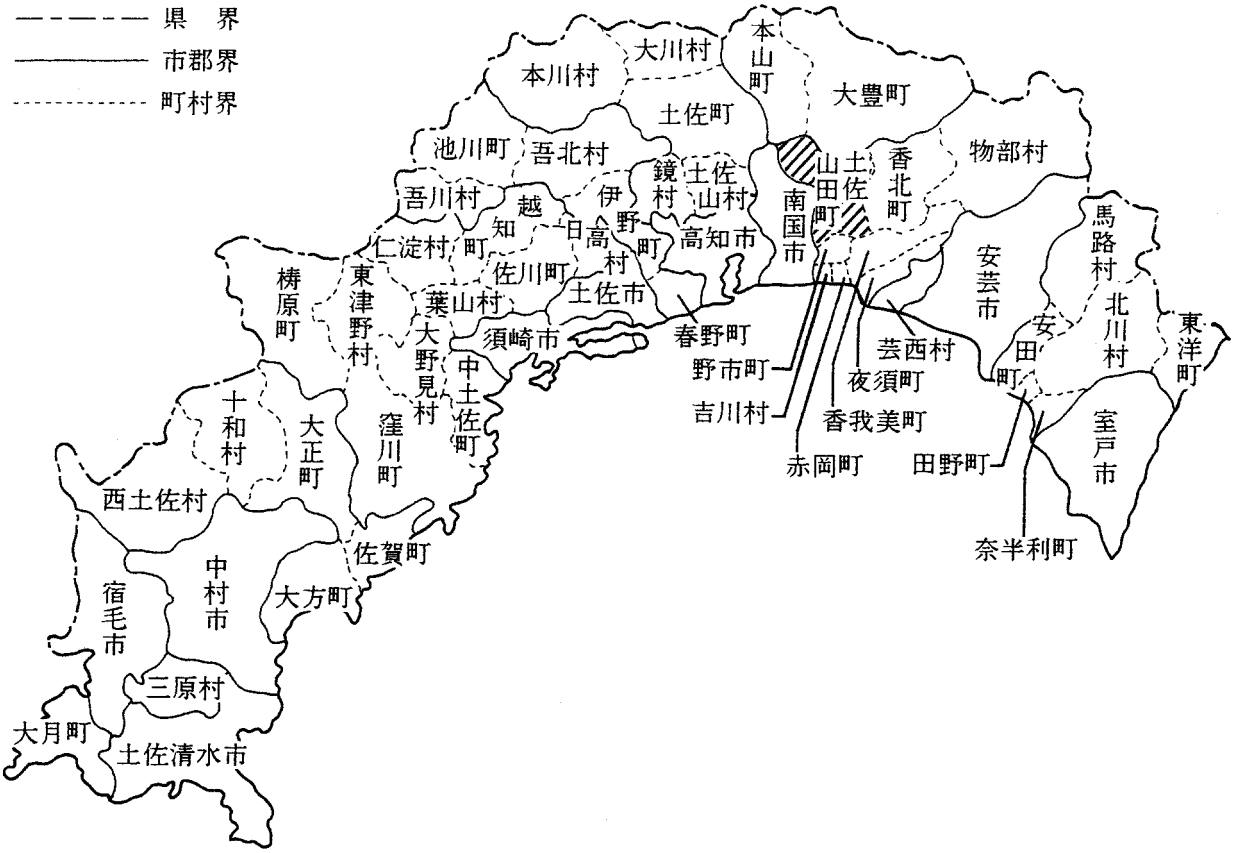


図1　土佐山田町位置図

2．歴史的環境

土佐山田町は、地理的に恵まれ、県下最大の穀倉地帯である香長平野の一画に位置することから原始以来、脈々とした人の営みを台地に刻み付けている。また、南に隣接する南国市とともに県下屈指の遺跡密集地帯である。

土佐山田町の歴史は、北部山麓部の西谷遺跡[1]の調査により旧石器時代後期に始まる。二次堆積遺物ではあるがチャート製のナイフ型石器が多量に出土し、遺跡の立地など奥谷南遺跡[2]と非常に似ている。続く、縄文時代では、新改川の河岸段丘に立地する開キ丸遺跡[3]より早期押型文系土器が出土し、また新改川支流の砥川左岸の小山田遺跡[4]からは、晩期の土壙4基と突帯文土器が出土し、北部山間部に所在する飼古屋岩陰遺跡[5]からは早期押型文土器、厚手無紋の葛島式土器、中期の船元Ⅱ式土器、後期の彦崎KⅡ式土器とともに多量のサヌカイト製の石鏃が出土している。また、東部物部川左岸の段丘上、林田シタノヂ遺跡[6]が存在するが、ここでは、ピット状遺構から後期初頭の中津式土器が出土している。

弥生時代では前期に属する遺跡の確認には至っておらず、今のところ中期後半に位置づけられる龍河洞洞穴遺跡[7]が最古である。この遺跡は全山石灰岩でできた三宝山(322m)の中腹に開口した洞穴遺跡で、昭和8年に遺跡の部分が発見され、翌9年に天然記念物及び史跡として国指定を受けている。洞内の生活面は3室からなり、出土遺物は凹線文の発達した龍河洞式土器をはじめ、鉄鏃、石錘、有孔鹿角製品、貝輪、骨製管玉、瑪瑙製勾玉等の装身具、貝類、獣骨類の自然遺物などである。また、龍河洞式土器に混在してただ一点、弥生時代後期末のヒビノキⅡ式土器が出土している。龍河洞洞穴遺跡と同時期とみられる遺跡に、予岳遺跡[8]、雪カ峰遺跡[9]、影山遺跡[10]がある。中期後半に属する遺跡は多く原遺跡[11]、原南遺跡[12]からは竪穴住居跡とともに環濠と思われる溝や掘建柱建物跡等集落を構成する遺構も発見されている。その北部台地上には、弥生時代後半～古墳時代初頭の土器群が出土したひびのき遺跡[13]が存在する。これらの土器群はヒビノキⅠ～ヒビノキⅢ式土器と命名され、高知県中央部以東の標準式土器とされていると同時に、同遺跡がその時期に集落遺跡として栄えたことを示している。弥生時代も後期となると遺跡数、規模の拡大がみられ、特に同遺跡に代表されるよる後期後半に属する遺跡の急増が認められる。隣接するひびのきサウジ遺跡[14]では、弥生時代後期後半の竪穴住居跡が5棟検出されており、この内1棟は祭祀的意味を持つものと考えられている。また、物部川左岸には林田遺跡[15]が存在する。ここからは竪穴住居跡5棟が検出され、土器と共に多量の鉄鏃が出土している。

古墳時代では、小円墳・横穴式石室・群集といった特徴を持つ後期古墳が存在し、山麓部を中心に知られている。中でも、ひびのき遺跡に近い伏原大塚古墳[16]は、5世紀末から6世紀初頭に築造されたと考えられる。また、この古墳の周溝からは須恵器の円筒埴輪が出土している。この期の須恵器の窯跡は今のところ発見されていないが、当古墳の埴輪の存在を考えれば、出現期は少なくとも築造期と同時期まで遡ることは可能であろう。また、これらの遺跡を特徴づける遺跡として当町北部の新改地区とその周辺に所在する須江古窯跡群[17]を挙げることができる。奈良時代から平安時代にかけての須恵器、瓦焼成の窯跡が現在40数カ所確認されている。窯跡の中には比江廃寺跡[18]の瓦を焼成したタンガン窯跡[19]や土佐国分寺の平瓦を焼成した東谷窯跡[20]も存在し、また新改川左岸の河岸段丘に所在する須江上段遺跡[21]、須江北遺跡[22]からは官衙的掘立柱建物跡や多量の須恵器、土師器が出土している。特に須恵器には湾曲した遺物が混在しており、須恵器生産に係わる遺跡と考えられる。なお、新改、須江地区は、その西方約2㎞に土佐国府を控えていることから国府と密接な結びつきが想定される。

当町南部の沖積平野は高知県最大の平野、香長平野北端部にあたり、広く古代の条理制遺構を残している。また、「大領」・「田倉」・「宮毛田」等の地名があり、周辺からは、古代の遺物が表面採集され古代香美郡の郡衙の推定地[23]と考えられる。

中世では、土佐戦国七雄に数えられる山田氏[24]が建久4年(1193)に土佐国へ入部以来、勢力をのばし、楠目の山田城を本拠[25]に領主制支配を行なうが、長宗我部氏により天文期頃攻撃を受けて滅亡する。

近世にはいり野中兼山[26]による山田堰、上、中、舟入川の三用水の敷設等による長岡台地の開発により在郷町[27]として香美郡北部の山間地域と南部の平野部との接点として物産集散地となり、高知城城下町の経済圏域として発展し、今日に至る。

註

(1) 西谷遺跡『土佐山田史談』第25号「土佐山田町における考古学の成果と課題(Ⅵ)」2000

(2)『奥谷南遺跡Ⅰ』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター　1999

(3)『埋文こうち』第14号　P13　高知県教育委員会文化財保護室　2000

(4) 小山田遺跡　註1と同じ

(5)『飼古屋岩陰遺跡発掘調査報告書』日本道路公団・高知県教育委員会　1983

(6)『林田シタノヂ遺跡Ⅱ　農村基盤総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会　1993

(7)『龍河洞』高知県教育委員会　1959

(8)『土佐山田町史』 P52　土佐山田町教育委員会　1979

(9) 註8と同じP52

(10)註8と同じP52

(11)『公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　－原遺跡－』高知県教育委員会　1982
「公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　－原遺跡Ⅱ－」『高知県文化財調査報告書』第25集　高知県教育委員会　1984

(12)『原南遺跡発掘調査報告書』高知県文化財団　1991

(13)『ひびのき遺跡』土佐山田町教育委員会　1977

(14)『ひびのきサウジ遺跡発掘調査報告書』(土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第８集)土佐山田町教育委員会　1990

(15)『林田遺跡発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会　1985

(16)『伏原大塚古墳』(土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第14集)土佐山田町教育委員会　1993

(17)註8と同じP130

(18)『高知県文化財調査報告書第16集　高知県比江廃寺跡』高知県教育委員会　1970『高知県埋蔵文化財報告書第33集　比江廃寺跡発掘調査概報』高知県教育委員会　1991

(19)註8と同じP126

(20)『新改東谷古窯跡群発掘調査』土佐山田町教育委員会　1978

(21)『土佐山田北部遺跡群－山田北部県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書－』(土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第12集)土佐山田町教育委員会　1992

(22)註21に同じ

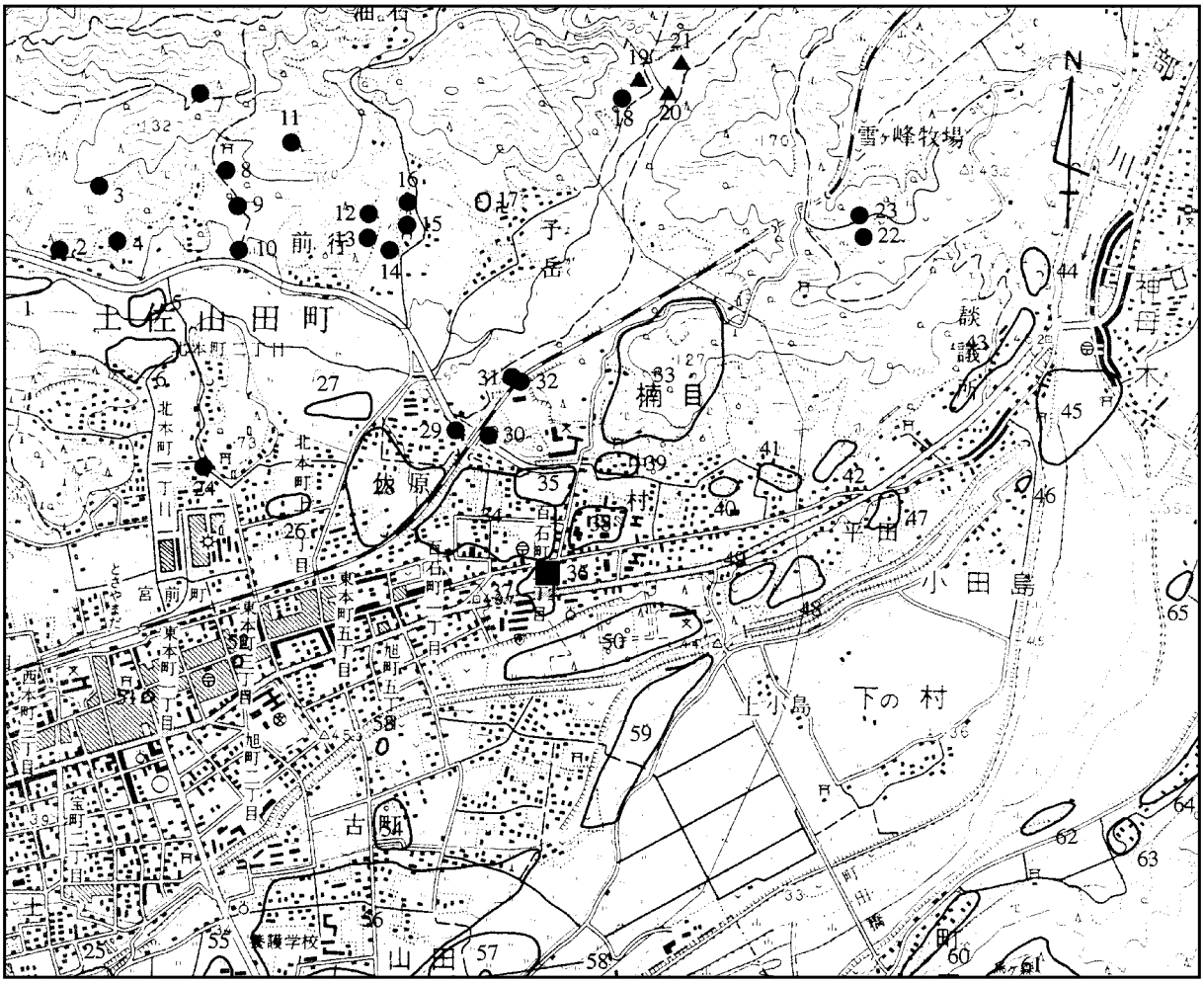
(23)岡本健児 「土佐神道考古学5」 『土佐史談』第120号

(24)註8と同じP217

(25)註8と同じP248

(26)註8と同じP354

(27)註8と同じP365



番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	西クレドリ遺跡	弥生	23	雪ケ峯2号墳	古墳	45	山田堰	弥生
2	東平南古墳	古墳	24	八王寺西古墳	〃	46	小田島遺跡	古代
3	杖坂2号墳	〃	25	下夕野遺跡	〃	47	郷本遺跡	弥生
4	杖坂3号墳	〃	26	長谷川丸遺跡	〃	48	前ノ芝遺跡	古代
5	植キノサキ遺跡	中世	27	メウカイ遺跡	弥生	49	大西土居遺跡	近世
6	山ノ間丸遺跡	〃	28	伏原遺跡	古墳	50	楠目遺跡	〃
7	深坂古墳	古墳	29	鏡野学園古墳	〃	51	公儀の井戸1	弥生
8	中沢古墳	〃	30	小倉山古墳	〃	52	公儀の井戸2	〃
9	溝渕古墳	〃	31	伏原1号墳	〃	53	古町北遺跡	〃
10	桜ケ谷古墳	〃	32	伏原2号墳	〃	54	古町西遺跡	〃
11	杖坂東古墳	〃	33	楠目城跡	中世	55	クロアイ遺跡	中世
12	前行山1号墳	〃	34	ひびのきサウジ遺跡	古墳	56	原遺跡	〃
13	前行山2号墳	〃	35	ひびのき岡の神母遺跡	弥生	57	高柳遺跡	古墳
14	神母古墳	〃	36	伏原大塚古墳	古墳	58	高柳土居城跡	〃
15	大元神社古墳	〃	37	大塚遺跡	〃	59	稲荷前遺跡	中世
16	大元神社北古墳	〃	38	ひびのき遺跡	弥生	60	ガニウド遺跡	〃
17	山田氏累代墓所	中世	39	ひびのき大河内遺跡	〃	61	烏ケ森城跡	〃
18	予岳古墳	古墳	40	田所神社遺跡	〃	62	加茂神社西遺跡	古墳
19	予岳窯跡	古墳	41	横田遺跡	〃	63	加茂遺跡	近世
20	長谷山1号窯跡	平安	42	南森城跡	中世	64	山田島遺跡	古代
21	長谷山2号窯跡	〃	43	宮田遺跡	弥生			
22	雪ケ峯1号墳	古墳	44	雪ケ峯（談議所）城跡	中世			

図2　楠目城跡と周辺の遺跡分布図・表

第Ⅱ章　調査に至る経過と調査方法

1．調査に至る経過

楠目城跡は香美郡中北部に勢力を誇った山田(大仲臣)氏の居城として知られる中世城跡であり、昭和39年10月27日に土佐山田町指定史跡となっている。城跡は、標高132.4mを測る城山に立地しており、山頂からの展望は、東から西へと広がる高知平野が見渡せる。

楠目城跡は土佐山田町史編纂事業[1]に伴い平板測量がなされ、詰ノ段を含む各曲輪、土塁、堀切等について現状地形による観察を中心とした調査の詳細な報告がなされているが、文献、古絵図等の史料もなく、具体的な城跡の構造についてはほとんど不明であった。今回、楠目城跡の遺構の存在確認、今後の保存のための基礎資料を得るために国庫補助事業による試掘調査を実施した。

註

(1)『土佐山田町史』土佐山田町教育委員会　1979　P245～251

2．調査の方法

試掘調査は城跡の主要な曲輪に任意によるトレンチ調査区を設定し、表土及び遺構検出面、遺物包含層直上までの掘削を人力により精査を行なった。遺構、遺物の出土状況及び土層等については、写真撮影を行なった後、平面図及び断面図を作成した。遺物の取り上げ、遺物の実測については、任意座標に基づいて4m方眼をかけ記録、実測を行なった。平面実測、及び地層断面については、20分の1を基本とし、必要に応じて10分の1の実測を行なった。

図3　楠目城跡周辺地形図

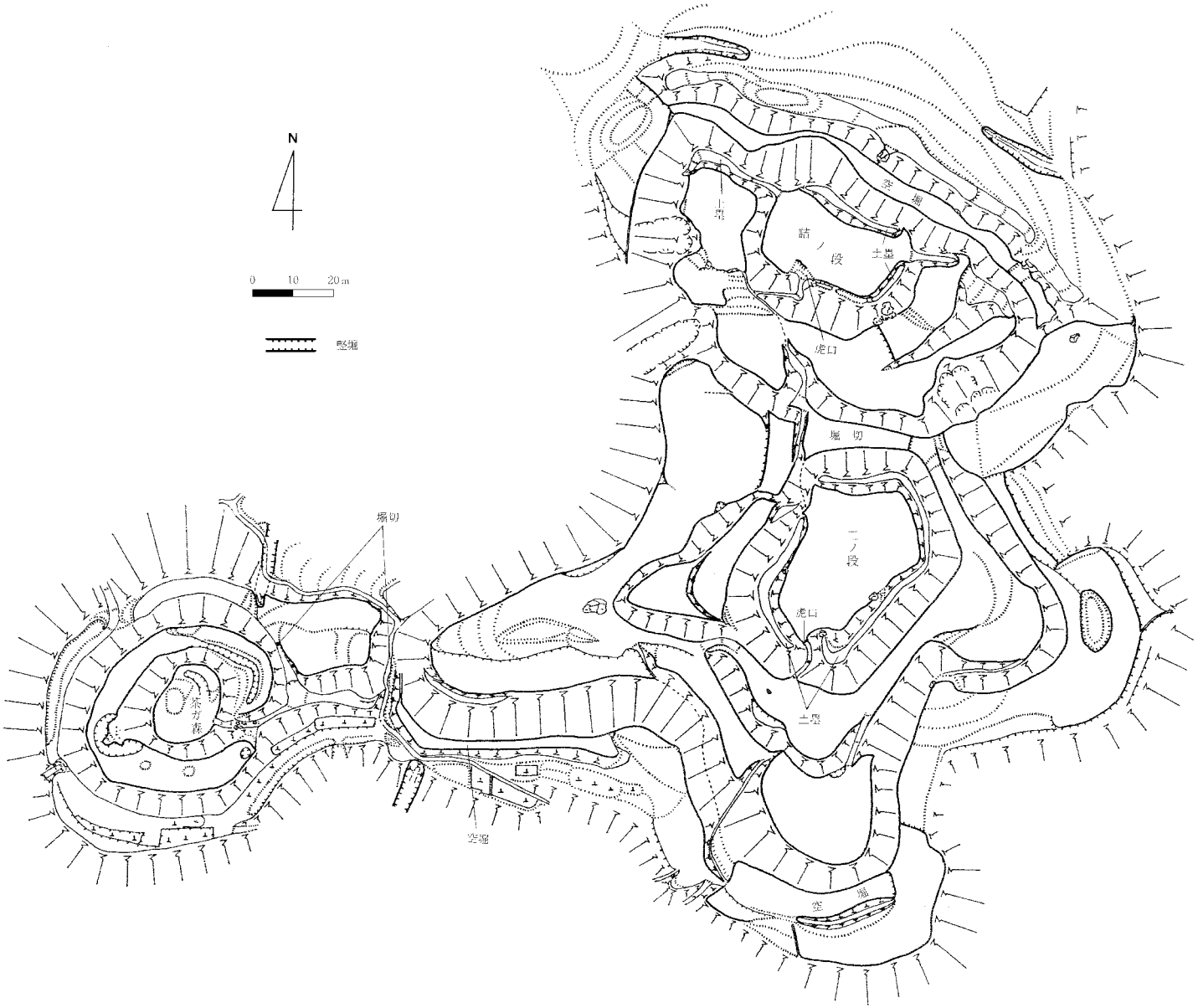


図4　楠目城跡現状図

第Ⅲ章　遺構と遺物

トレンチによる試掘調査を城跡の主要な曲輪に13箇所設定し、試掘調査を実施した。調査面積は、63.5㎡である。以下、調査されたトレンチの遺構及び遺物について述べる。

(1)TR1

TR1は城跡北端に位置する詰ノ段の西側に位置する曲輪に設定した2m×2mのトレンチである。層序は1層、黒褐色の表土で2層は赤褐色土層で2層下は地山である。遺構はピットが3個検出された。ピットの平面形は円形で直径20～20.5㎝で深さ6～8㎝を測る。遺物は出土していない。

(2)TR2

TR2は詰ノ段のほぼ中央東側に位置する2m×2mのトレンチである。層序は1層が黒褐色の表土で2層は明褐色土層で2層以下はチャートの岩盤である。遺構は検出されていないが土師質土器(杯)がチャートの岩盤上より5点出土ている。

出土遺物(遺物観察表番号1～5)

1は土師質土器の杯で精選された胎土で平坦な底部から直線的に立ち上がり口縁部にいたる。口縁部先端はやや尖る。器面内外面にロクロによる横ナデ調整がみられる。底部は回転糸切りがみられる。2は土師質土器の杯で精選された胎土で平坦な底部から直線的に立ち上がる。器面内外面にロクロによる横ナデ調整が施され、底部は回転糸切りである。3は土師質土器の杯で精選された胎土で平坦な底部から直線的に立ち上がる。器面内外面にロクロによる横ナデ調整が施され、底部は回転糸切りである。4は土師質土器の杯で胎土は精選された粘土が使用されている。内外面は摩耗しており、内面底部にロクロによる段がみられる。底部は平坦を呈し、回転糸切りである。5は土師質土器の杯で平坦な底部から直線的に立ち上がる。精選された胎土で器面内外面はロクロによる横ナデ調整が施される。底部は回転糸切りである。

(3)TR3

TR3は詰ノ段の南側中央部東寄りに位置する1m×3mのトレンチである。層序は1層、黒褐色の表土で2層は暗赤褐色土層、3層は赤褐色土層(地山)からなる。曲輪南端部より東西に石列が2層で検出されている。拳大から人頭大の石が使用されている。遺物は出土していない。

(4)TR4

TR4は詰ノ段下の曲輪に位置する4m×4mのトレンチである。層序は1層の黒褐色の表土である。1層下はチャートの岩盤である。遺構、遺物とも検出、出土していない。

(5)TR5

TR5は詰ノ段下の曲輪に位置する2m×2mのトレンチである。層序は1層、黒褐色の表土で2層は褐色土層、3層は黄褐色土層の地山である。遺構、遺物とも検出、出土していない。

(6)TR6

TR6は詰ノ段と南側に所在する二ノ段を分断する掘切りの西側に位置する2m×2mのトレンチで層序は1層、黒褐色の表土、2層は暗赤褐色土層、3層は赤褐色土層、4層は灰褐色土層(後世の整地層？)、5層はピットの埋土で暗褐色土層、6層は橙色土層の地山である。遺構は4層、6層面よりピットが3個検出されている。また、セクション断面に1個確認された。ピットの平面形は円形で直径20～25㎝で12～15㎝を測る。遺物は土師質土器の細片、

染付片(遺物観察表7)、備前焼片(遺物観察表6)が出土している。

(7)TR7

TR7はTR6の東側に位置する2m×2mのトレンチで層序は1層、黒褐色の表土、2層は暗赤褐色土層、3層は赤褐色土層、4層は明赤褐色土層、5層は橙色土層の地山である。遺構は検出されていない。遺物は土師質土器の細片が出土している。

(8)TR8

TR8は二ノ段北側に位置する1m×8mのトレンチで層序は1層、黒褐色の表土、2層は褐色土層、3層は黄褐色土層である。3層下はチャートの岩盤である。遺構は3層面よりピット2個が検出された。平面形はほぼ円形で25～40cm、深さ12～18cmを測る。遺物は出土していない。

(9)TR9

TR9はTR8の西側に隣接している2m×4mのトレンチである。層序は1層は黒褐色の表土、2層は褐色土層、3層は黄褐色土層の地山である。遺構、遺物とも検出、出土していない。

(10)TR10

TR10は二ノ段の南側からの入り口に位置する2m×4mのトレンチである。層序は1層、黒褐色の表土、2層は赤褐色土層である。遺構、遺物とも検出、出土していない。

(11)TR11

TR11は二ノ段より2段目の曲輪の西側に位置する1.5m×3mのトレンチである。層序は1層、黒褐色の表土、2層は褐色土層、3層は黄褐色土層である。3層下はチャートの岩盤である。遺構はピットが2個検出された。ピットの平面形は円形を呈し、直径22cm～40cm、深さ10cm～15cmを測る。遺物は出土していない。

(12)TR12

TR12はTR11の西側の曲輪に位置し、麓から城山への山道に隣接している2m×2mのトレンチである。層序は1層、黒褐色の表土、2層は褐色土層、3層は明褐色土層の地山である遺構、遺物とも検出、出土していない。

(13)TR13

TR13は詰ノ段の所在する城山より西南へ延びる山の尾根、標高100.4mの通称「茶カ森」と呼ばれる山頂に位置する2m×2mのトレンチである。層序は1層、黒褐色土の表土、2層は褐色土層、3層は橙色土層の地山である。遺構はピットか2個検出された。ピットの平面形は円形で直径20～25cm、深さ10～15cmを測る。遺物は出土していない。

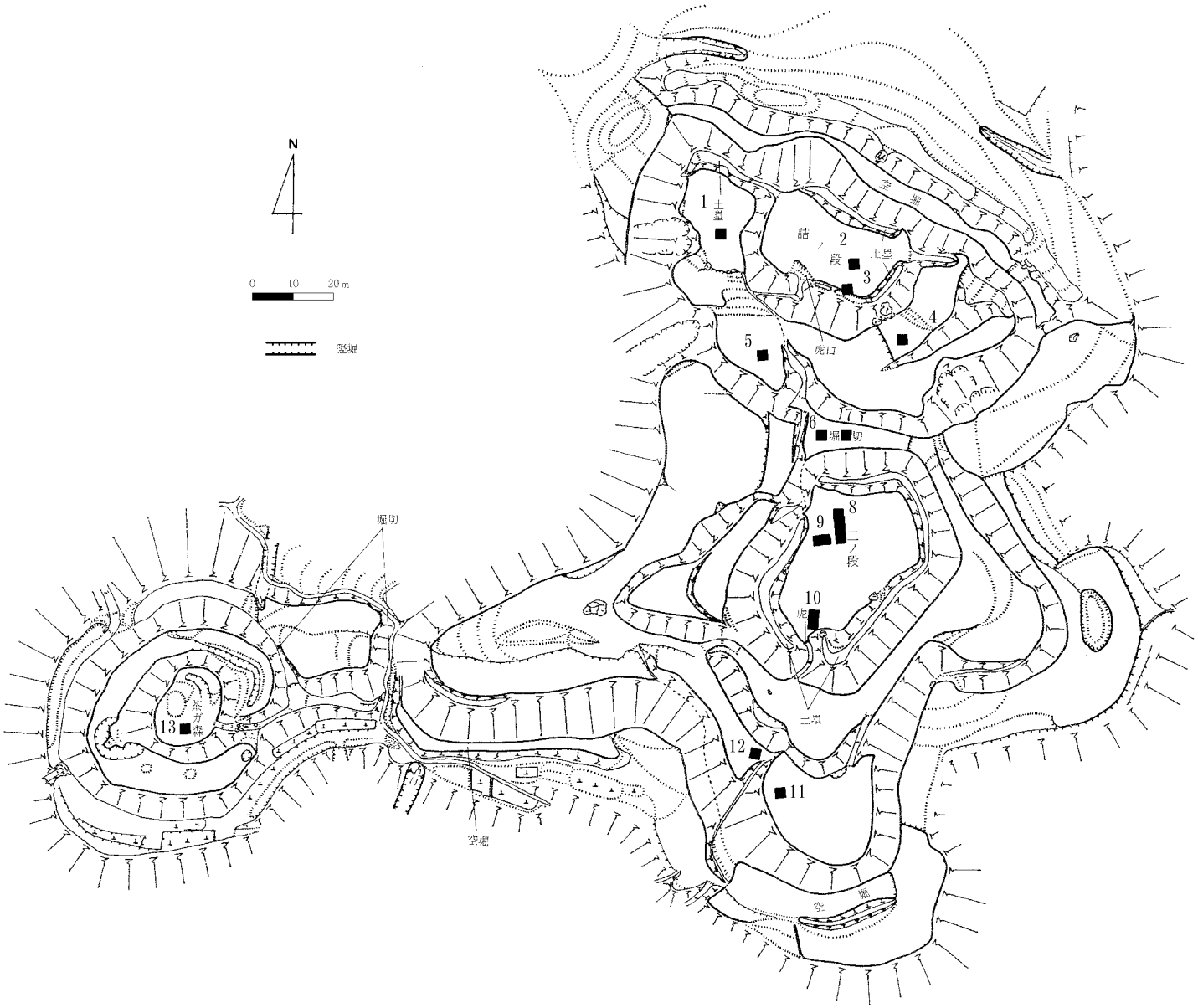


図5　試掘調査トレンチ位置図

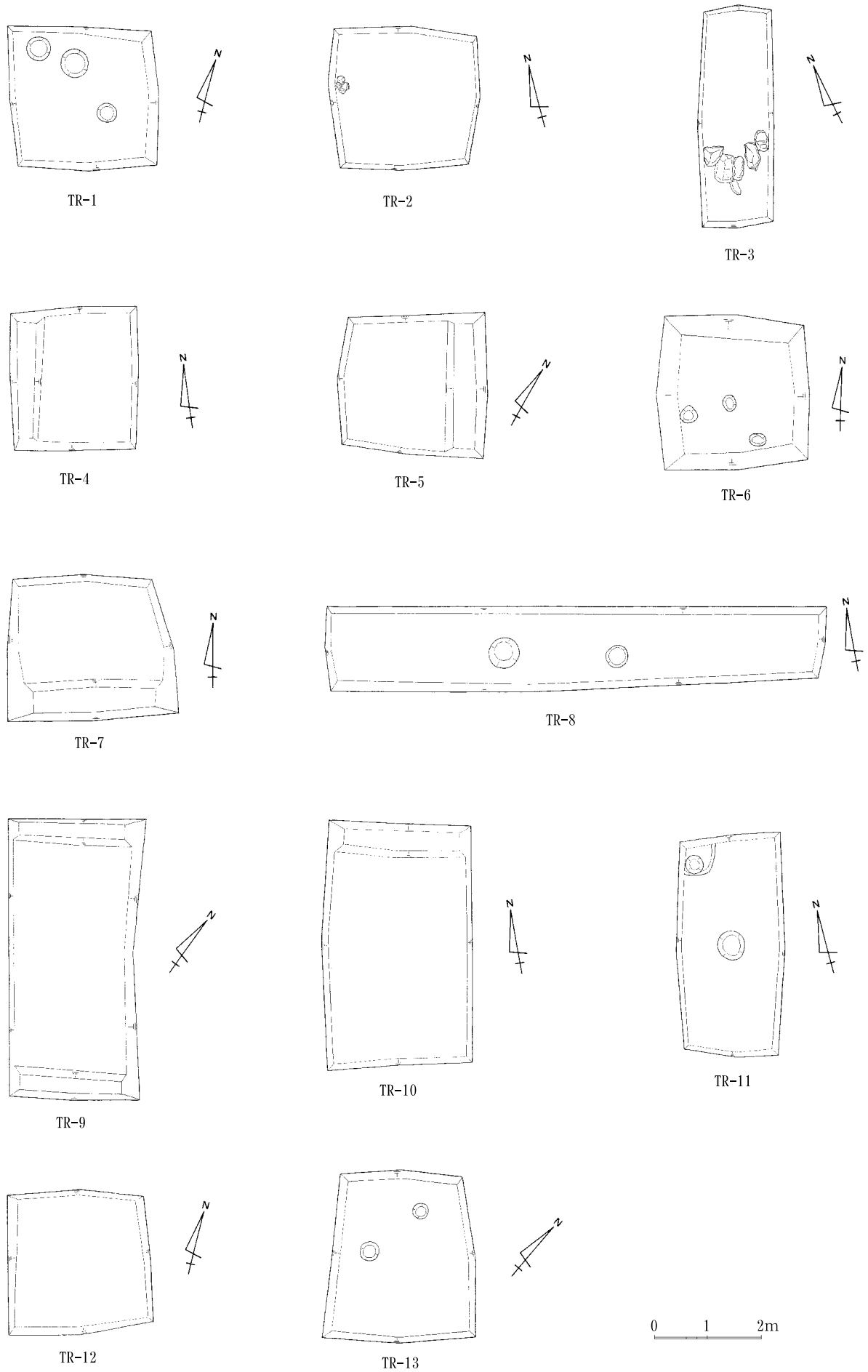


図6　トレンチ1～13平面図

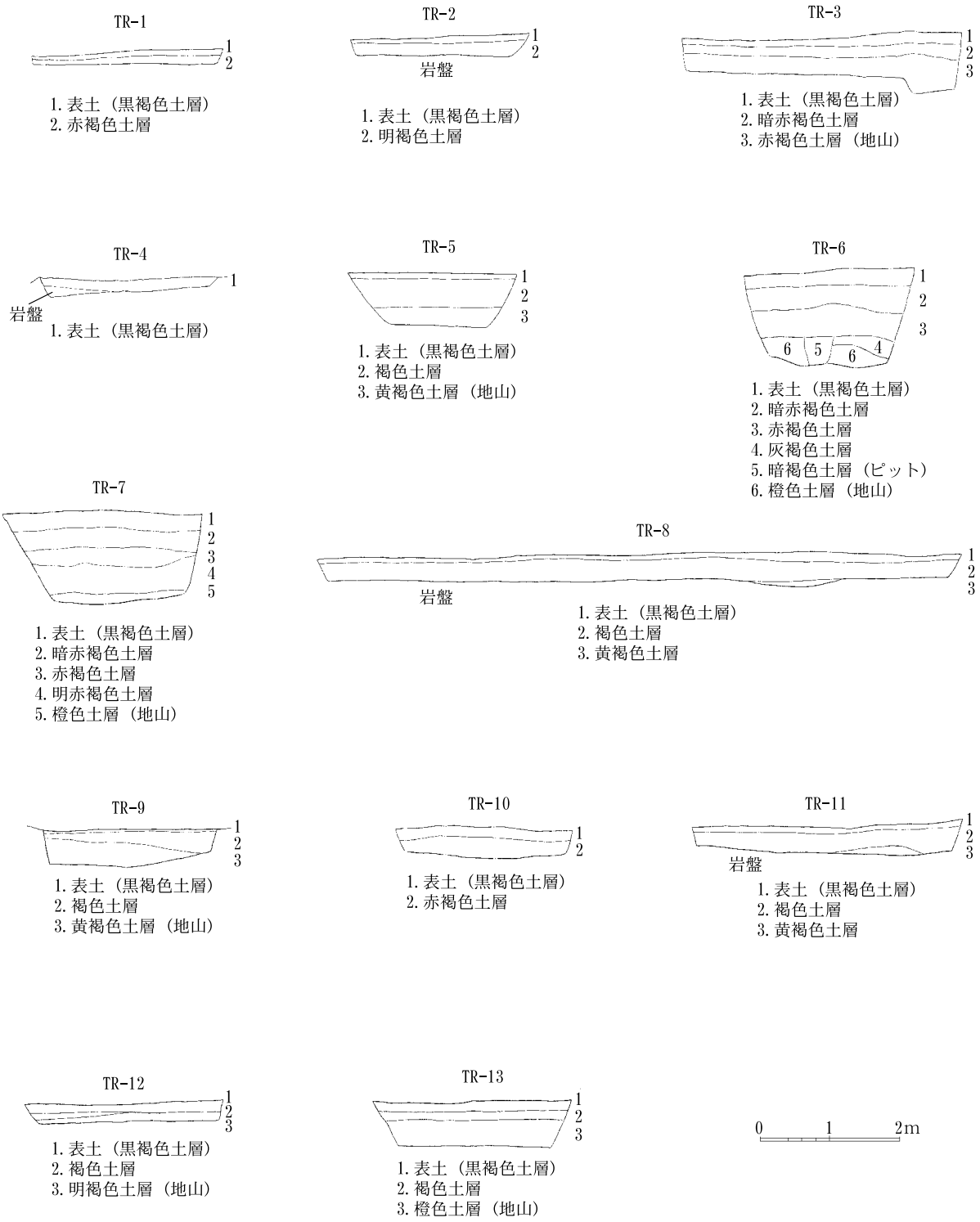


図7　トレンチ1～13セクション図

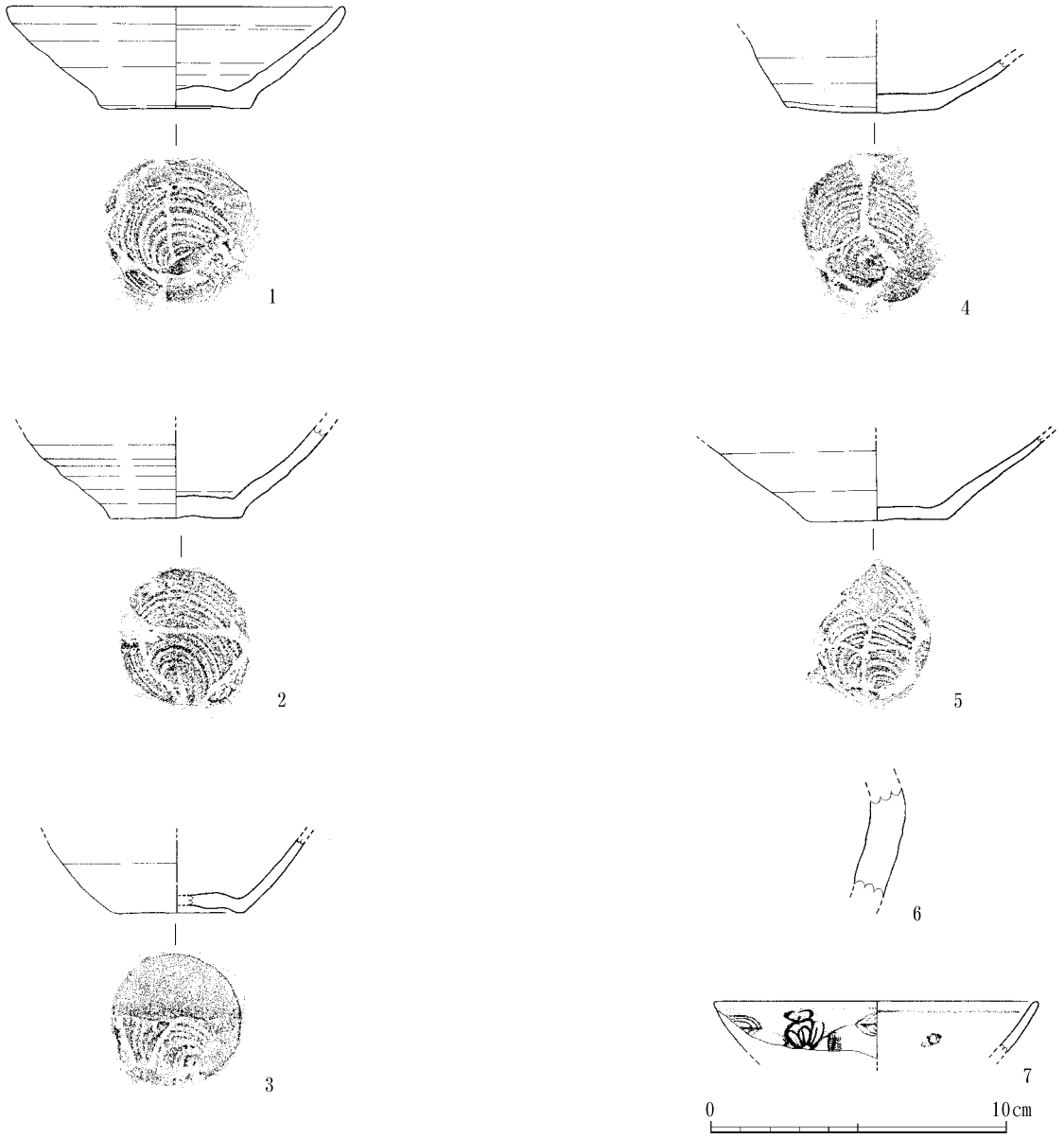


図8　楠目城跡出土遺物

遺 物 観 察 表

図No.	写真No.	出土地点 遺構・層位	種類	器種	法量（cm）			胎土	焼成	色調	特徴 成形／調整／その他
					口径	器高	底径				
1	1	TR6　Ⅱ層	土師質土器	杯	11.6	3.5	5.0	精選された胎土	良	内面：7.5YR6/6橙 外面：5YR6/6橙	回転糸切り 内外面ロクロによる横ナデ調整 底部内面にロクロ形成による著しい段をなす
2	2	TR6　Ⅱ層	土師質土器	杯	10.4	－	4.6	精選された胎土	良	内面：7.5YR4/6褐 外面：5YR6/4にぶい橙	回転糸切り 内外面ロクロによる横ナデ調整 内面ロクロ形成による著しい段あり
3	3	TR6　Ⅱ層	土師質土器	杯	8.8(推)	2.6	4.6(推)	精選された胎土	良	内面：5YR5/4灰にぶい赤褐 外面：5YR6/3にぶい橙	回転糸切り 底部内面はロクロ形成による著しい段上をなす 内外面回転ナデ調整
4	4	TR6　Ⅱ層	土師質土器	杯	－	－	5.6	精選された胎土	良	内面：7.5YR5/4にぶい褐 外面：7.5YR6/4にぶい橙 断面：7.5YR7/4にぶい橙	回転糸切り 内外面ロクロによる回転ナデ調整 底部内面ロクロ形成による著しい段をなす
5	5	TR6　Ⅱ層	土師質土器	杯	－	－	5.2	精選された胎土	良	内面：7.5YR6/4にぶい橙 外面：7.5YR6/4にぶい橙 断面：7.5YR6/6橙	回転糸切り 内外面ロクロによる横ナデ調整 底部内面にロクロ形成による著しい段をなす
6	6	TR7　Ⅱ層	備前焼		－	－	－	砂粒を含む	良	内面：N4/0灰 外面：2.5Y7/3浅黄 断面：7.5Y5/1灰	内外面ロクロによる横ナデ調整
7	7	TR7　Ⅱ層	染付	碗	10.6 (推定)	－	－		良	内面：7.5GY8/1明緑灰 外面：7.5GY8/1灰白 断面：10YR8/3浅黄橙	

第Ⅳ章　まとめ

今回の試掘調査により表土下には柱穴が数ヶ所存在する曲輪が確認することができた。特に詰ノ段では柱穴や僅かに削平によって残った土師質土器が出土しているが遺物の時期は山田氏滅亡後の16世紀後半と考えられる。二ノ段においては表土下20～30㎝に岩盤を刳り抜いた柱穴が検出された。どの試掘地点の層位も浅く遺構の残存はあまり良好とはいえないが今後の城跡保存の資料として少なからずも得ることができた。

文献面での研究においては、長宗我部氏に早くから滅ぼされたため、歴代の動向など山田氏に係わる文献史料は数少なく、現在までに山田氏に関する研究は「土佐の七守護」と言われる有力国人のなかで、最も研究が遅れていたが近年、幾つかの論文が発表[(1)(2)(3)(4)(5)(6)]されている。

一方、歴史地理学的研究においては早くから『長宗我部地検帳』による山田氏城下の市町に関する研究論文[(7)(8)(9)]が発表されている。

考古学的には、城下町と周辺の発掘調査の成果により城下町に関係する遺跡、遺物の報告がなされている。[(10)(11)(12)]

今後、『長宗我地検帳』と城跡の曲輪の比較検討、山田氏の土居、家臣居宅、市町、宗教施設等の城下町の構成等、山田氏の領主制展開の基盤の一つである城跡、城下町を文献史料、考古学的資料により検討する課題は多い。

註

(1)『土佐山田町史』土佐山田町教育委員会　1979 P215～238

(2)「予岳寺薬師如来座像と山田氏」　前田和夫　『土佐史談』第142号所収　土佐史談会　1976 P19～23

(3)「戦国末期の山田氏について」　朝倉慶景　『土佐史談』第184号所収　土佐史談会　1990 P1～10

(4)「室町・戦国期における土佐国有力国人衆の動向と蹴鞠について」　朝倉慶景　『土佐山田町研究紀要』第1集　土佐山田町教育委員会　1998 P58～65

(5)「永禄末期における長宗我部氏の権力構造－「一宮再興人夫割帳」の分析を中心に－」　市村高男　『海南史学』第36号所収　海南史学会　1987 P1～44

(6)「中世山田氏についての基礎的考察」　市村高男　『土佐山田史談』第26号所収　土佐山田史談会　2001 P10～25

(7)「土佐における天正期市町の形態と規模ならびに景観について－山田と高岡の場合－」　島田豊寿　『土佐史談』第124号所収　土佐史談会　1969 P43～50

(8)「戦国末期土佐国における地方的中心集落－香我美郡山田市の事例研究－」　小林健太郎　『歴史地理研究と都市研究（上)』所収　大明堂　1978 P228～237

(9)「長宗我部地検帳からみた楠目地域について－山田氏の城と城下町の一考察－」　中山泰弘　『土佐山田史談』第23号所収　土佐山田史談会　1998 P14～26

(10)『大塚遺跡発掘調査報告書(土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第9集)』　山本哲也ほか　土佐山田町教育委員会　1991

(11)『ひびのきサウジ遺跡Ⅱ(高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第7集)』　曽我貴行　(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター　1992

(12)『伏原大塚古墳(土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第14集)』　廣田桂久　土佐山田町教育委員会　1993

附編　土佐山田町中世城館跡一覧表及び分布図

土佐山田町中世城館跡一覧表　（『高知県遺跡地図』所収の城館　1998年）

（地図位置●城　■土居）

地図番号	名称	所在地	占地状況	現況	遺構・遺物	築・在城者（推定・伝承）	文献	現地名	備考 地検帳地名・箇所頁・その他
1	西之森城	穴内字城坂	山頂	山林、墓地	詰ノ段、二ノ段、堀切（単郭）	大石石見	州郡志	上穴内字城坂	
2	穴内城	穴内字城床	山頂	山林	詰ノ段、二ノ段、三ノ段 堀切　（単郭）	大石石見	州郡志	上穴内字城床 （通称地名）	大石石見守の砦か？
3	佐岡土居	本村字コジョウ	平地	山林	詰、土塁、空堀（複郭）	広井俊将	地検帳 南路志 州郡志	本村字コジョウ、イバ、 ジョノマエ、ナカヤシキ	城八幡、山田氏の支城か？ 地検帳地名 北二ノヘイ、御所ノ内、弓場 東二ノヘイ［香美下Ｐ465］
4	談議所城	楠目談議所	丘陵	山林、公園 社寺境内	詰ノ段、二ノ段、三ノ段 堀切　（単郭）	山田監物	南路志	楠目字檀御前	山田氏の支城
5	高柳土居	山田字二の塀	平地	水田、墓地	詰、土塁、 堀跡（発掘調査確認） （複郭）	西内氏（細川氏） 西内常陸 西内佐渡守	南路志 地検帳	山田字二ノヘイ	地検帳地名 詰、一ノ塀、西二ノ塀 土居職 ［香美下Ｐ321］
6	影山城	間字城山丸	丘陵	畑	詰ノ段、二ノ段、（単郭）	野中肥後守貞吉		間字城山丸	若宮八幡宮
7	入野城	入野字城ノ谷	山頂	山林	詰ノ段、二の段、堀切、 土塁　（単郭）	入野左馬介	州郡志	入野字城ノ谷	山麓に土居屋敷
8	穂岐山城	平山字古城	山頂	山林	詰ノ段、堀切　（単郭）	穂岐山新左衛門	州郡志	平山字古城	山麓に土居屋敷
9	岡ノ上 山城	平山字城ノ本	山頂	山林	詰ノ段、二ノ段、三ノ段 土塁　（単郭）	馬場玄蕃	州郡志	平山字城ノ本	城八幡宮
10	亀ノ野城	平山字城山	山頂	山林	詰ノ段、堀切　（単郭）		州郡志	平山字城山	
11	植村城	植字古城	山頂	山林	詰ノ段、二ノ段、土塁 堀切　（単郭）	上村越前守 上村孫左衛門 上村兵庫 上村七郎左衛門	地検帳 南路志 州郡志	植字古城、古城北平	城八幡
12	楠目城 （山田城）	楠目字城南、城 山	山頂	山林、畑	北詰ノ段、南詰ノ段、二ノ段、 三ノ段、土塁、空堀、西側に 単郭の出丸、井戸 （複郭）	山田（大中臣） 氏 山田元道 山田基道	地検帳 南路志 州郡志	城山、城南法林寺、簾中、 東市、西市、ヲウバヤシ キ、城ノ間門	山田氏本城 山田市町 菩提寺　予岳寺 地検帳地名 笠懸馬場、弓場、西城山、北城 山、南ノ森東二ノ丸大門ノワキ、 南森西二ノ丸、南森ノ詰、マリ ノニワ、北ノ森詰 ［香美下Ｐ336～Ｐ351］
13	蚊居田 土居	上改田字改田城	平地	水田、畑 社寺境内	（複郭）	蚊井田氏 蚊井田修理	地検帳 州郡志	上改田字改田城、 城ノ前弓場	広旗八幡宮 地検帳地名 本ツメ、二ノ塀、東二ノ塀、 北三ノ塀、ヲモテ、二ノ塀、 ［長岡上Ｐ307］西弓場、東弓場
14	久次土居	久次字古城丸	平地	水田、畑、 宅地、 社寺境内	土塁　（複郭）	豊永源三郎	地検帳 州郡志	久次字古城丸	宇佐八幡宮 地検帳地名 久次ノ土居、東構え内、二ノ塀 ［長岡下Ｐ317］
15	蚊居田城	上改田字城ノ西 城ノ前	山頂	牧場、 山林	詰ノ段、二ノ段、三ノ段 出丸、堀切、土塁	蚊居田修理力	州郡志	上改田字城ノ西、城ノ前 （通称地名） 城山、クリヤガ峰	城八幡
16	林田土居	林田字八幡	平地	駐車場 宅地、林	（複郭）		地検帳	林田字八幡、前土居、 御婆屋式	城八幡 地検帳地名 詰、二ノ塀、東ヤシキ、三ノ塀、 御うはヤシキ、西ドイ ［香美下Ｐ389］
17	烏ケ森城	加茂字町田山	山頂	山林	詰ノ段、二ノ段、三ノ段 （単郭）	西内常陸		加茂字町田山、町田	

現地名土居関係（長宗我部地検帳記載外）一覧表

（番号Ｂ・地図位置▲）

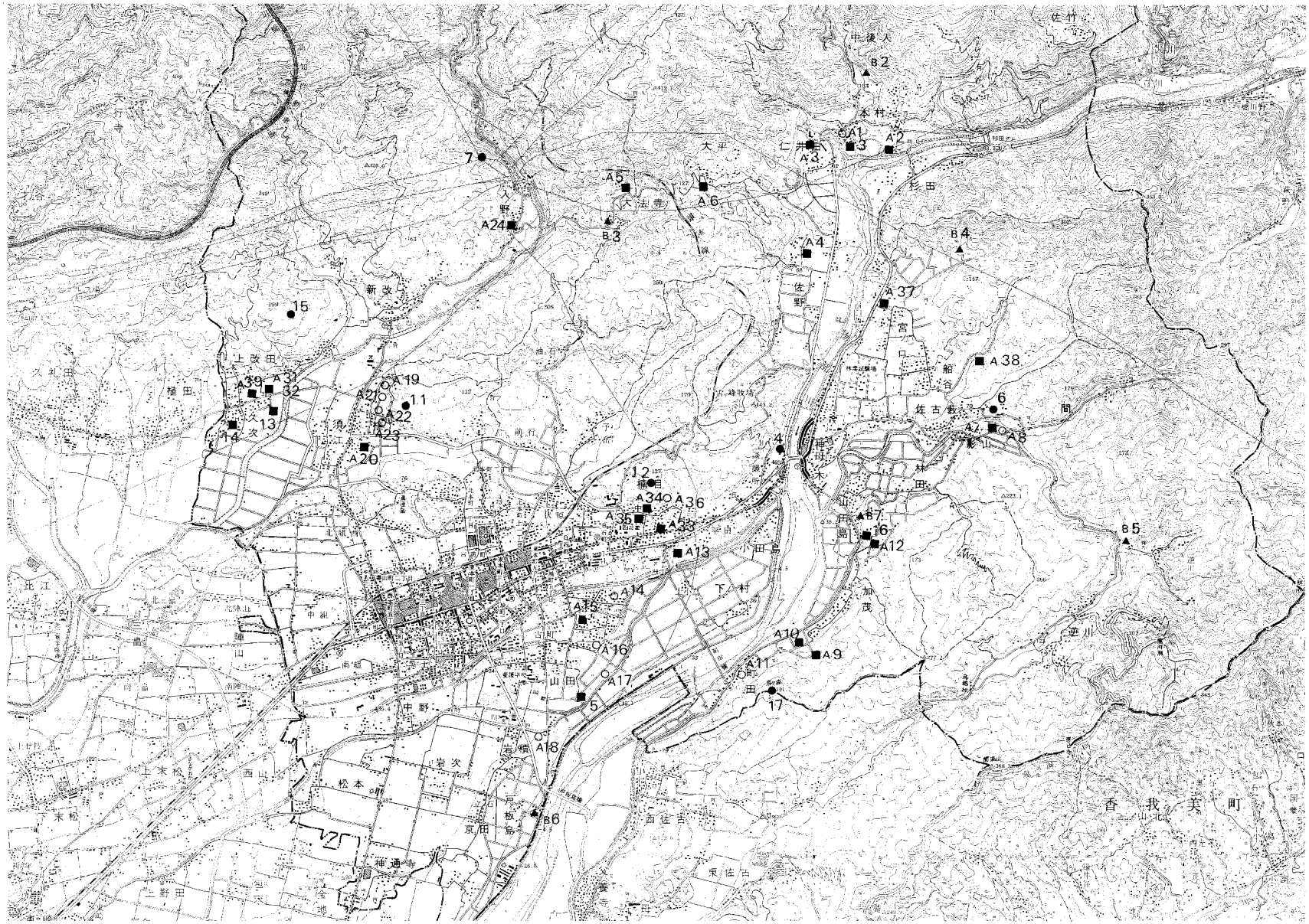
地図番号Ｂ	地名	所在地	（参考）地検帳周辺地名・ヤシキ	所有者 居住者	屋敷の等級 その他	備考
Ｂ１	ドイノマエ	大後入字ドイノマエ	大後入村字的ハ ６代	名本抱 （大後入名） 大良三良居	下々屋敷	周辺にトイノ前谷川フチ ［香美下Ｐ448］
Ｂ２	土居屋敷	中後入字土居屋敷				
Ｂ３	西土居	大法寺字西土居	御子之谷村字名本ヤシキ 44代	傍士二良兵衛給 三良衛門居	中屋敷	名本ヤシキ？ ［香美下Ｐ439］
Ｂ４	内ドイ	宮ノ口字内ドイ	宮ノ口村字名本ヤシキ 10代出19代１歩	宮口名 名本居	中屋敷	名本ヤシキ？ ［香美下Ｐ415］
Ｂ５	土居	逆川字土居				
Ｂ６	土居	戸板島字土居				
Ｂ７	古土居	山田島字古土居	山田島村字八反ノツホシケ前地 １反27代　内１反名本ヤシキ	山田島名 浜田七衛門抱 四良兵衛居	下屋敷	２反10代川成クヘ残り 名本ヤシキ？ ［香美下Ｐ189］

長宗我部地検帳記載の土居一覧表（番号Ａ・地図位置■土居・○位置不明）

地図番号Ａ	名　　称	地検長による所在地	面　　積	出分（面積）	所有者（給人等）	居 住 者	屋敷の等級そ の 他	備　　考
Ａ１	フクラノ土居	佐岡村字高タヤシキ他	１反10代	出21代３歩	中内善介　給			現：本村　㊞ヤシキなし 五百蔵藤三良永地買取　［香美下Ｐ465］
Ａ２	ヲキノ土居	佐岡村字 フルヤシキ他	１反20代		野中孫七郎　給	源二良居	上屋敷	現：本村字ヲキノドイ ［香美下Ｐ459］
Ａ３	ニイタ土居	佐野村字ニイタ他	１反	出37代５歩	北窪孫七郎　給		中ヤシキ	現：仁井田字ドイノマル ［香美下Ｐ479］
Ａ４	トイ（土居）	シャウレンヤシキ 佐野村字土イノ前 他	２反26代１歩		池　彦七　給	主居	上ヤシキ	現：佐野字ドイ ［香美下Ｐ476］
Ａ５	□□寺土居 （大法）	西ノヤシキ 大法寺村字川崎	29代２歩		大法寺弥次良　給	主居	中ヤシキ	現：大法寺字ドイヤシキ ［香美下Ｐ437］
Ａ６	名本ヤシキ	大比良村字土ゐノウシロ ナカミ子宮	１反	11代勺	大比良孫衛門　給	主居	中屋敷	現：大平字ドイノマエ、ドイノニシ （名本ヤシキは土居か？）［香美下Ｐ431］
Ａ７	東土居	陰山村字仏ノ本他	15代	出22代１歩勺	野中虎千代　給	孫大良居	上屋敷	現：影山字東土居 ［香美下Ｐ397］
Ａ８	□山本土居	陰山村字仏ノ本他	32代		野中虎千代　給	常祐　居	上屋敷	現：影山字東土居周辺？ ［香美下Ｐ397］
Ａ９	カモトイ	賀茂村字南屋敷 メイシ他	10代	出21代勺	水田甚兵衛　給	主居	中屋敷	現：加茂字加茂ノ土居 ［香美下Ｐ380］
Ａ10	土居	地蔵堂 賀茂村字カモヤニウトウ	45代		酒枝左馬允　給	大良左衛門居	中屋敷	現：加茂字城ノ前？ 小字地蔵堂ノ南、カニウド［香美下Ｐ378］
Ａ11	町タトイ	町田 町田村字東山ノ根大道ノ下 他	30代	出30代４歩	矢野甚兵衛　給	島崎甚兵衛居	上屋敷	現：町田字カニウド東山路？ ［香美下Ｐ376］
Ａ12	西土居	御うはヤシキ 林田村字西トイ 他	20代	出20代２歩	中伝五郎　給		下屋敷	現：林田字前土居、御婆屋式 （複郭式の城か？）［香美下Ｐ389］
Ａ13	大西土居	窪村字ヤカシロ	１反	出10代	玉井兵庫　給	主居	中屋敷	現：楠目字大西土居 （ヤカシロは館城：ヤカタシロか？） ［香美下Ｐ335］
Ａ14	八王子北土居	山田郷字八王子宮ノ前 （八王子）　他	１反		山崎蔵人三良　給	主居	上屋敷	現：山田字八王子林？ ［香美下Ｐ327］
Ａ15	□マトイ	山田郷字小嶋 （小嶋）	20代	出１反３代 ４歩勺	小嶋分 中内千菊　給		中屋敷	現：山田字小島土居 ［香美下Ｐ326］
Ａ16	前トイ	山田郷字センラウクチ （高柳）　他	１反	出37代	吉松右兵衛　給		上屋敷	現：山田字膳調口？ ［香美下Ｐ325］
Ａ17	上嶋西ノトイ	山田郷字スキカ内 （上嶋）　他	30代	出７代４歩	上嶋左兵衛　給	主居	中屋敷	現：山田字　高柳周辺か？ ［香美下Ｐ319］
Ａ18	時久土居	サイクショ 岩積村字前田 他	１反１代２歩		馬場孫四良　給		上屋敷 土居識	現：山田字時久周辺か？ ［香美下Ｐ291］
Ａ19	前土居	フカサコ 上村字コウトノテン 他	25代	出25代５分	上村　給	安世知祖母居	中ヤシキ	該当字なし 植村城関係か？ ［香美下Ｐ512］
Ａ20	南土居	フカサコ 上村字コウトノテン 他	20代	出21代１分半	上村　給	治部居	中ヤシキ	現：植字南土居、ユミバ 植村城関係か？　［香美下Ｐ512］
Ａ21	下ノ土居	ヒシリヤシキ 上村字岡ノアン 他	20代	出23代３分半	上村　給		下ヤシキ	該当字なし 植村城関係か？ 参考：植字ナカノアン　［香美下Ｐ514］
Ａ22	土居	クホタ 上村字万福寺 他	２反10代２分半		上村孫左衛門尉給		上ヤシキ 土居識	現：植字万福寺周辺か？ 植村城関係か？ ［香美下Ｐ514］
Ａ23	西土居	タキ 上村字トミタ 他	10代30分半		上村　給		下ヤシキ	該当字なし 植村城関係か？ ［香美下Ｐ512］
Ａ24	土居ヤシキ	サコヤシキ 入野村字常蔵院ヤシキ 他	25代	出18代３分半	入野左馬助　給	主居	上ヤシキ	現：入野字土居丸、佐古ノ上 ［長岡下Ｐ303］
Ａ25	土居	穂岐山　大ヤシキ 曽我部川字ミ子 前ヤシキ他	１反10代	出32代２分	曽我部川分 中内平内給	三郎衛門ゐる	中ヤシキ	現：曽我部川字土居屋敷、大屋敷 ［長岡下Ｐ341］
Ａ26	土居	穂岐山　ヲモテ 平山里字門ノ上 他	32代		穂岐山新左衛門尉給		中ヤシキ 土居識	現：平山字土居 ［長岡下Ｐ350］
Ａ27	上ノ土居	穂岐山　ヲカサキ 平山里字　北ノヤシキ 他	１反	出20代４分半	穂岐山新左衛門尉給	五郎左衛門ゐる	中ヤシキ	現：平山字土居 ［長岡下Ｐ350］
Ａ28	土居	穂岐山里　大ナロ 東河　字的ハヤシキ 他	５代	出19代３分	東川大郎兵衛　給	主居	中ヤシキ	現：東川字トイヤシキ、マトハ ［長岡下Ｐ363］
Ａ29	土ゐヤシキ	クシヤヤシキ 久次村字久次ノ土居 古坊	20代	出10代５分	島田杢助　給		下ヤシキ	現：久次字修理、西土居か？ ［長岡下Ｐ318］
Ａ30	土居	甫喜山分　サカイノ石 肆手任字　カメノ谷 石ハラ	１反１代２分		豊永文右衛門尉　給	主ゐる	上ヤシキ	現：繁藤字土居 ［長岡下Ｐ333］
Ａ31	土ゐ	蚊居田村字カイ田 淵ノ上	40代	出10代３分	新四郎五郎　給		中ヤシキ	現：上改田字　東土居か？ 周辺に四方、三方ヤフのヤシキ多数 ［長岡上Ｐ304］
Ａ32	土居	蚊居田村字カイ田 淵ノ上	１反	出32代３分	新四郎五郎　給		上ヤシキ	現：上改田字東土居か？ ［長岡上Ｐ304］
Ａ33	楠目土居	山田郷字楠目	42代４歩勺		中内千菊　給		中屋敷	現：楠目字土居 ［香美下Ｐ348］
Ａ34	簾中土居	山田郷字レンチウ	20代	出37代５歩	中内千菊　給		上屋敷	現：楠目字レンチウ ［香美下Ｐ338］
Ａ35	御南ノ土居	山田郷字市ノ後 スワ宮ノ北	30代	出22代	小山御乳　給		上屋敷	現：楠目字大河内 ［香美下Ｐ342］
Ａ36	北土居	山田郷字城山 楠目	１反14代４歩		楠目亀市　給	主居	中屋敷	現：楠目字城南、楠目 ［香美下Ｐ349］
Ａ37	キタムラ土居	山田郷　トイ 北村字　ウシロタ	２反４歩		北村惣左衛門給	主居	中屋敷	現：宮ノ口字土居丸 ［香美下Ｐ413］
Ａ38	ササノ本土居 ヤシキ	山田郷　西ノヤシキ 船谷村字連福寺	２反40代	出46代２歩	船谷名 舟谷八良左衛門抱			現：舟谷字ドイヤシキ 隣接して名本ヤシキ（舟谷八良左衛門居、上屋敷、34代勺）あり。　［香美下Ｐ407］

長宗我部地検帳→地検帳、土佐州郡志→州郡志、長宗我部地検帳香美郡下→香美下、長岡郡上、下→長岡上、長岡下

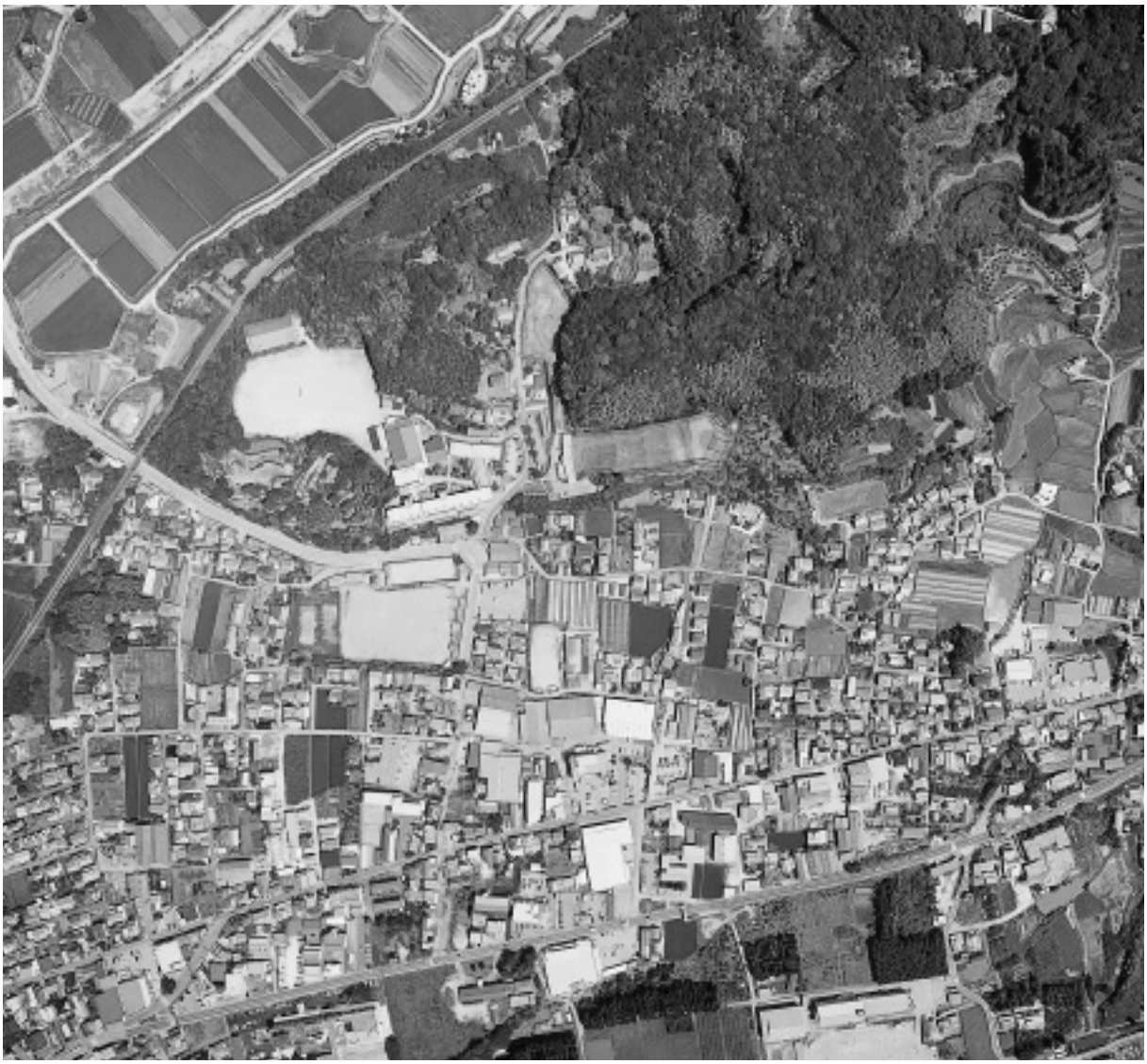
中世城館分布図1



中後人
B2
本村
A1
3
A2
仁井
A3
大平
杉田
7
A5
大法寺
A6
入野
A24
B3
A4
B4
佐野
A37
宮口
A38
船谷
新改
15
上改田
A39
A31
32
植田
A19
A21
11
A22
A23
13
14
A20
6
佐古
A7
A8
4
12
A34
A36
A35
A33
A13
B7
16
A12
B5
小田島
下村
加茂
A14
A15
A16
A10
A9
A11
A17
5
17
山田
中野
A18
岩次
松本
B6
京田
神通寺
上野田
西佐古
東佐古
香我美町

中世城館分布図2

写真図版



楠目城跡周辺航空写真

楠目城跡遠景（南東より）

楠目城跡近景（南より）

楠目城跡近景（北より）

楠目城跡近景（西より）

楠目城下町跡近景（北より）

堀切

二ノ段虎口

二ノ段土塁

城内井戸

法林寺

（参考）山田氏の菩提寺〔旧予岳寺跡遠景〕（南より）

（参考）山田氏の菩提寺〔現予岳寺〕

（参考）山田氏累代の墓石

（参考）山田氏累代の墓石

（参考）昭和20年頃の楠目城跡遠景

（参考）昭和40年頃の楠目城跡遠景

調査風景

TR-6　遺構完掘状況

TR-1　遺構完掘状況

TR-8　遺構完掘状況

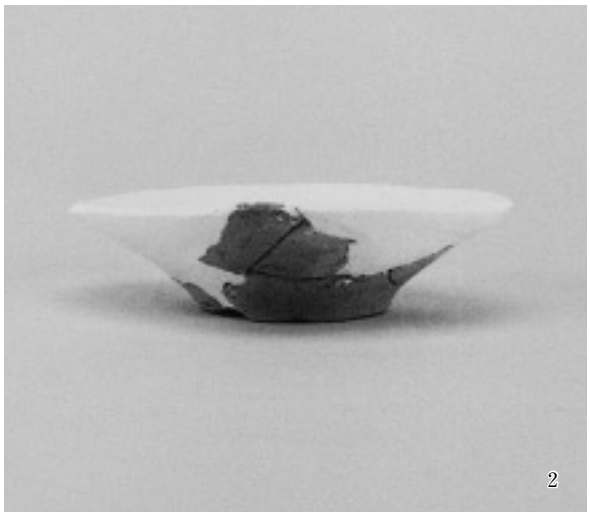
TR-2　遺物出土状態

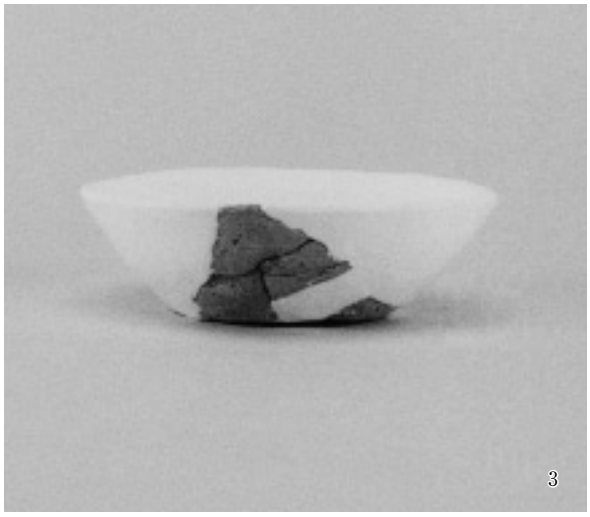
TR-11　遺構完掘状況

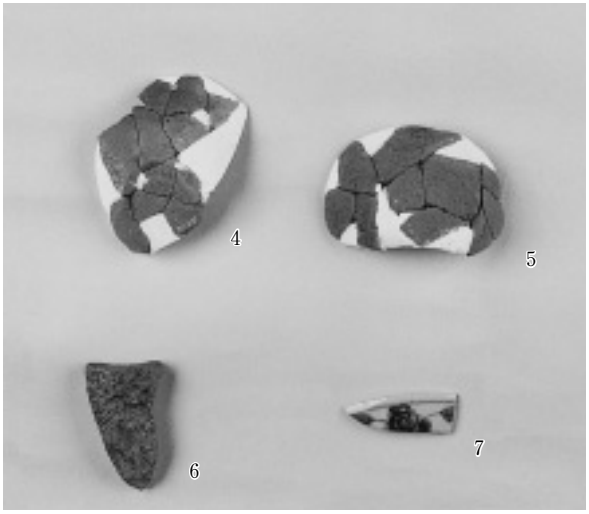
TR-3　遺構完掘状況

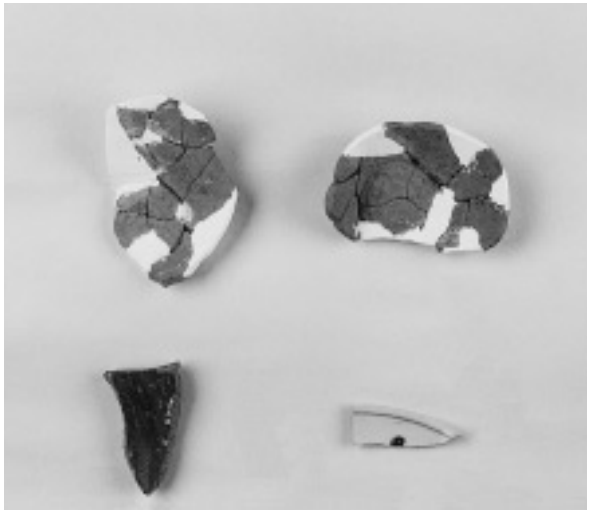
TR-13　遺構完掘状況

1


2


3


4
5
6
7



報告書抄録

ふりがな	くずめじょうあと（やまだじょうあと）
書名	楠目城跡（山田城跡）
副書名	山田氏関連遺跡確認調査報告書
巻次	Ⅰ
シリーズ	土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第26集
編著者名	中山泰弘
編集機関	土佐山田町教育委員会
所在地	〒782－0017　高知県香美郡土佐山田町岩積365－1　ＴＥＬ(0887)53－3111
発行年月日	西暦2002年6月30日

ふりかな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °　′　″	東経 °　′　″	調査期間	調査面積	調査原因
楠目城跡 （山田城跡）	高知県香美郡 土佐山田町 楠目字城山 3548-3他	393231	楠目城跡 190110	33° 36′ 702″	133° 42′ 035″	試掘調査 1997.08.04 ～ 1998.01.30	63.5㎡	学術調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
楠目城跡 （山田城跡）	城館跡	中世	柱穴	土師質土器，染付， 備前焼	

楠目城跡（山田城跡）

山田氏関連遺跡確認調査報告書

2002年6月30日

編集・発行　高知県土佐山田町教育委員会

高知県香美郡土佐山田町岩積365-1

電話（0887)53-3111（代）

印刷　川北印刷株式会社